

短大特任教員教育研究業績書

平成30年5月3日

| | | | | |
|-------|---------|----------------|-----------------------|-------------|
| 氏名 | ふりがな | 所属 | 職位 | 性別 |
| 中西 里果 | なかにし りか | 保育学科 通信教育課程 | 教授・准教授・ 講師 ・助教 | 男・ 女 |

担当科目名

音楽表現ⅠA

学 歴

| 和暦(西暦)年 月 | 事 項 | 学位 |
|-----------------|--|---------|
| 昭和 58(1983)年 4月 | 武蔵野音楽大学音楽学部音楽教育学科(ピアノ専修) 入学 | |
| 昭和 62(1987)年 3月 | 武蔵野音楽大学音楽学部音楽教育学科(ピアノ専修) 卒業 | 芸術学士 |
| 昭和 62(1987)年 4月 | 武蔵野音楽大学大学院音楽研究科音楽教育専攻 入学 | |
| 平成元(1989)年 3月 | 武蔵野音楽大学大学院音楽研究科音楽教育専攻 修了 | 芸術学修士 |
| 平成 7(1995)年 4月 | 千葉大学大学院教育学研究科学校教育専攻 入学 | |
| 平成 9(1997)年 3月 | 千葉大学大学院教育学研究科学校教育専攻 修了 | 修士(教育学) |
| 平成 10(1998)年 4月 | 慶應義塾大学大学院社会学研究科教育学(教育心理学)専攻 後期博士課程 入学 | |
| 平成 14(2002)年 3月 | 慶應義塾大学大学院社会学研究科教育学(教育心理学)専攻 後期博士課程 単位取得退学 | |

教育歴・職歴

| 名 称 | 期 間 | 教育内容又は業務内容 |
|----------------------|----------------------|---|
| 大妻中学高等学校 | 平成元年4月～7年3月 | 音楽科 非常勤講師 |
| 慶應義塾大学 | 平成11年7月～12月 | 文部省科学研究費特定領域研究「心の発達：認知的成長の機構」(A)2 研究協力者 |
| 慶應義塾大学 | 平成13年8月～14年1月 | 平成13年度未来開拓学術研究推進事業研究プロジェクト研究「メンタルモデルの利用と形成における外的・内的情報の統合」研究協力者 |
| 帝京平成大学 帝京メディア・ラボ | 平成14年6月～19年3月 | 「脳波等の非侵襲的方法による脳内の情報処理推定アルゴリズムおよびその応用に関する研究開発」 研究員 |
| 帝京平成大学 帝京メディア・ラボⅢ | 平成13年10月 ～平成14年3月 | オープンリサーチセンター整備事業「非侵襲的方法を用いた高齢者対応の安定的評価システムの開発」 研究員 |
| 近畿大学 | 平成21年7月～25年3月 | 研究平成21～24年度(2009～2012年度)科学研究費補助金基盤研究(C)(一般)「音声、音楽刺激に誘発される感性の能動的特性に関する生理学と音響学の融合」 研究支援スタッフ |
| 東京都市大学 | 平成26年4月～30年3月 | 平成26～29年度科学研究費補助金 基盤研究C 感性BMI(Brain-Machine Interface)に関する研究 研究協力者 |
| 東京子ども専門学校 | 平成29年4月～30年3月 | 非常勤講師 |
| 小田原短期大学 | 平成30年4月～現在 | 保育学科通信教育課程 講師 |

所 属 学 会 等

| 名 称 | 活動期間 | 活動内容(役職等の活動を含む) |
|---------|------------|-----------------|
| 日本感性工学会 | 平成26年3月～現在 | |

社 会 活 動 等

| 名 称 | 活動期間 | 活 動 内 容 |
|--------|------|---------|
| 特記事項なし | | |

| 担当教科目に関する資格・免許等 | | | | |
|---------------------------------------|----------|---|--|--|
| 名称 | 取得年月 | 取得機関 | | |
| 中学校教諭1種免許状 (音楽) | 昭和62年3月 | 東京都教育委員会 | | |
| 高等学校教諭1種免許状 (音楽) | 昭和62年3月 | 東京都教育委員会 | | |
| 高等学校専修免許状(音楽) | 平成元年3月 | 東京都教育委員会 | | |
| 研究実績に関する事項 | | | | |
| 代表的な著書、論文等の名称 | 単著共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称 | 概要 |
| (学術論文) 聴取時に動き情報の提示が被験者の心理的評価に及ぼす影響 | 共 | 平成25年3月 | 音声、音楽刺激に誘発される感性の能動的特性に関する生理学と音響学の融合研究平成21～24年度(2009～2012年度)科学研究費補助金基盤研究(C)(一般)研究成果報告書[21500209]pp. 47-50 | 幼児教育においても、音楽は情操教育の目的から重要な存在となっている。しかしなぜ音楽は感情を喚起するのかという、そのメカニズムについての科学的解明は未だなされていない。本研究では、このメカニズムには動き情報が関与していると仮定し、次のような心理実験を行った。音楽と共に等加速の動き方をするアニメーションと、等速の動きによるアニメーションを提示し、各々の調和感についての評価を被験者に求めた。その結果、ダイナミクスを感じさせる動きの方が、単調な動きに比べ、音楽とより調和していると判断されることが明らかになった。 |
| 視覚的動き情報が音楽の心理的評価に及ぼす影響 | 共 | 平成27年9月 | 感性BMI (Brain-Machine Interface)に関する研究平成26～29年度(2014～2017年度)科学研究費補助金基盤研究(C)(一般)中間成果報告書[26330317]pp. 9-12 | 指揮者の身振りがそうであるように、演奏に感情的意味を付加させる指導において、動き情報は有効な手段となっている。またリズムカルな音楽を聴いていると、身体を動かしたくなる経験は誰もが持っているだろう。本論では、これらの現象をヒントに、音楽と感情の喚起メカニズムに動き情報が関与していると仮定し検証を行った。その結果、緊張や弛緩といったダイナミクスを伴った動きの方が、単調な動きに比べ、より音楽と調和していると感じられていることが示された。 |
| 音楽と情動の相関における動き情報の役割—緊張と弛緩の交代に着目して— | 共 | 平成29年12月 | 日本感性工学会論文誌 Vol.16 No.5 pp. 425-429 | 「感性BMI (Brain-Machine Interface)に関する研究」における我々の研究成果は、ダイナミクスを伴った動きの方が、単調な動きに比べ、より音楽と調和していると感じられているというものであった。本論では、さらに次のような分析を行い、実験結果の妥当性を検証した。新たに行った分析では、被験者の専門的音楽レッスンの享受経験に着目した。この分析からは、享受経験の多寡に関わらず、等加速の動きを伴った音楽の方が、等速の動きによる音楽よりも、魅力的で調和していると判断されていることが明らかになった。 |
| その他 (表彰等) | 平成14年11月 | 日本音楽知覚認知学会 論文賞受賞 「演奏の情動表現の解読技能の発達」 音楽知覚認知研究 第6巻1号 | | |
| | 平成18年9月 | 日本感性工学会賞 論文賞受賞 「ビートトラッキング時と音楽聴取時の脳波α波帯域パワー変動の比較検討」 感性工学研究論文集 Vol. 5 No. 3 | | |